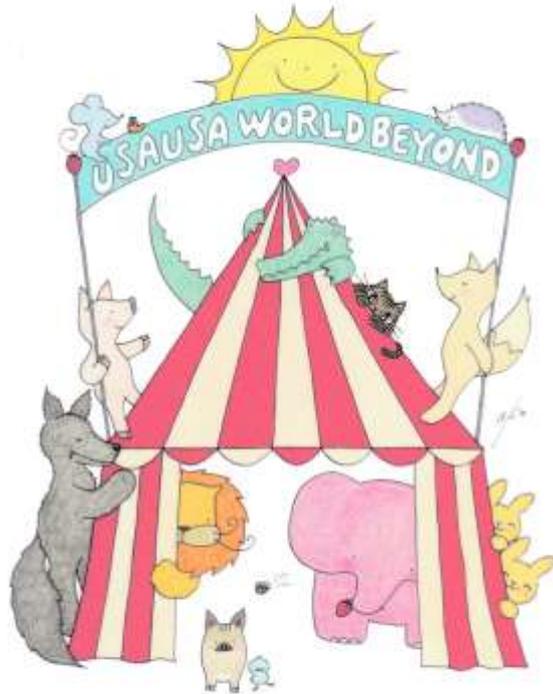


足利風 -ashikaga-fu

2019
6月号
Vol. 62



イラスト：あべ あやこ

足利市民活動センター

開館時間：平日 午前10時～午後7時

〒326-0051

栃木県足利市

大橋町1丁目2006-3

TEL 0284(44)7311

FAX 0284(44)7312

mail info@shimin-act.jp

HP <http://www.shimin-act.jp>

HP QR コード



☆ ご案内 ☆

- *特集！
- *TOPICS
- *私のボランティアことはじめ
- *サークル紹介
- *インフォメーション
- *センターからのご案内

* ソーシャル・デザインの美 *

「おてらおやつクラブ」というNPO法人による、全国の貧困家庭を支援する取り組みが、グッドデザイン大賞に輝き、大きな反響を呼んでいる。これまでの“デザイン”とは、商品価値を高めたり・消費活動を促すためのものだったが、今回初めて、社会基盤をつくる仕組みに光が当てられた。目には見えないが、クリエイティブ(創造)力で世の中をより良くしたいという“社会貢献活動の志”が、高く評価される時代に入った、と言える。全国各地のお寺にお供えされるお菓子を、“仏さまからのおさがり”として、全国各地の貧困家庭に“おすそわけ”という形でお届けするという慈悲ある活動。5年ほど前に、奈良のお寺から始まり、今や1000を超えるお寺が参加し、毎月約1万人の子どもたちへ贈られている。「ボランティアの心 NPOの志」と言われて久しいが、現在(いま)、“志の美しさ”を標榜する「ソーシャルデザイン」(社会的課題を創造的に解決するデザイン)の時代である。お寺の“ある”と、社会の“ない”をつなぐ、無理のない新しい社会インフラが誕生した。このプロジェクトは、仏教の基盤のあるアジア各地にも広がる可能性を秘めている。



「がんばろう東北！ 応援プロジェクト足利風」が、震災直後から現在まで支援をしている、東日本大震災の原発被災地・福島では、“モノはいいのに、なかなか売れない”という課題に加えて、風評被害がその悩みを増幅させた。

そこで、デザインの力に着目し、「ふくしまベストデザインコンペティション」を企画した。ソーシャルデザインという、社会変革をめざす“志の美しさ”を具現化する挑戦が始まった、と言える。

(M生)

* 足利尊氏の再評価を！ *

3月20日夜のボランティア・コーディネーター養成講座“歴史と文化を考える”は、とても深みのある講座となった。初期室町幕府研究の最前線を解説する、新進気鋭の亀田俊和氏も、これまでの影の薄い初代将軍・足利尊氏から、夢窓疎石や結城直光の言う、征夷大將軍の名に恥じない立派な将軍へと再評価した。また、東大教授・本郷和人氏も、鎌倉幕府を滅亡に追い込んだのは足利尊氏であり、弟・直義が鎌倉に東国武士の政権を樹立しようとしたのを押さえ、京都に武士主導による“ひとつの日本”を見据えた幕府を開いた、と足利尊氏の征夷大將軍としての先見の明を評価している…。このように、尊氏の再評価の流れをふまえた足利源氏の議論の足利における深まりを期待したい。

* ボランティア雑感 *

森田 芳己



ボランティア。奉仕活動。時間と労力を費やしたことはあるが、あまり考えたことはない。

それらしき事を思い返してみれば、昭和50年代の初め頃、仕事に就いて間もなく、労働組合に加入し、6～7年前に仕事を辞めるまで関わっていた。組合の仕事は夕方から夜中にかけてすることが多かった。昼間に出掛ける時や泊まり掛けの研究大会などの出張の際は、仕事については有給休暇を取る。有給休暇の8～9割は組合がらみであった。組合からは旅費と手当で僅かなものが出た程度である。

育児休業制度が未だほとんど無かった時代で、この制度の成立のために随分と時間と労力を費やしたのを憶えている。自分自身はこの制度の恩恵にあずかることはなかったし、他の制度についても同様のことがいえるのであったが・・・。

この組合の関係では、東北の地震の年にそこへ出掛けることにもなった。

次に、悩み事を電話で聴く活動に関わったが、奉仕というより自分の都合の部分が大きかったかと思う。

12～13才頃より始まった憂鬱質、そこから来る躓き。これに対処するための思考、その為の言葉。こういったものが、電話を受ける為の訓練を通して体系立ったものにまとめられるか、その結果これが人に対応する際に使えるか、というような動機だったといえる。そこにはボランティアという意識はあまり無かった。

これも現在は辞めて(休止?)、今は視覚障害者のための音訳をしているが、仕事も辞め、電話の活動も辞め、何もしていないのもどうしたものか、というところで始めたにすぎない。

動機はともあれ、ささやかに何かの為になる部分があれば幸いである。自分の側の都合であれば、やらされているという意識をあまり持たずに続けられるのかな、とも思う。

それにしても、思い返してみれば、仕事に就いて以来、今に至る迄、忙しくない時期は無かったな～と感じるこの頃である。

* 足利でおもちゃの修理をしませんか? *

「おもちゃの修理」を通じて、親子に「物を大切に作る心」と子供の「科学する心」を育むことを目的に「桐生おもちゃの病院」というボランティア活動が行われております。今回、足利で「おもちゃの病院」を作りたいと思っておりますので、関心のあるかたはご連絡ください。丁寧にご指導いたします。

桐生おもちゃの病院 門田 宏

連絡先 足利市民活動センター 0284-44-7311 担当 下地

① インフォメーション ①

☆「まちの縁側」～読書サロンへのご招待～

だれにでも心に残る一冊の本があります。童話・小説・詩集・・・等々。
その一冊の本を導きの糸として、案内人を囲んで、参加者のみなさんと一緒に、
ワイワイガヤガヤ・・・と。新しい人との出会いや物語を紡いでみませんか。
どうぞ、お気軽にご参加ください。

★ 6月21日(金) PM2:00～4:00

* 本 : 「燃えよ剣」(司馬遼太郎)

* 案内人: 白田 明 さん

* ひとつこと: 司馬遼太郎の長編歴史小説。新選組副長・土方歳三の生涯を描いた傑作です。新選組結成から各地での戦闘、そして箱館戦争で土方歳三が戦死するまでを「喧嘩師」の生涯として司馬一流の表現で描いている。新選組という組織を、局長・近藤勇の補佐・裏方に徹し、芸術的な作品にまで作り上げた土方歳三の手腕が見事に描かれている。現代でもファンが多い土方歳三の生き様を、一緒に！

★ 7月19日(金) PM2:00～4:00

* 本 : 目黒真理子 遺稿歌集「新編・青い翳」

* 案内人: 森田 芳己 さん

* ひとつこと: 花の如き夭折～目黒真理子という31歳で昭和40年に亡くなった薄命の歌人を知る人は少ないでしょう。生涯、不治の病に耐え、悩みながらも、那須野を愛し、詠う・・・その光と翳(かげ)。私が青年時代から大切にしてきた目黒真理子という歌人の人生と絶唱の数々を一緒に辿ってみたいと思います。

■会場: 足利市民活動センター

■参加費: 無料

■お問い合わせ・事務局: 足利市民活動センター ☎44-7311

* センターからのご案内 *

☆みんなの広場 ～ 6月・7月のご案内 ～

- | | |
|----------------------|--------------------|
| * 彩美会 水彩画展 | 6月 3日(月) ～ 13日(木) |
| * 陶苦勞 展 ～永倉功の世界～ | 6月 17日(月) ～ 27日(木) |
| * 蓮沼ヒロ子作品展 ～楽しいお絵かき～ | 7月 1日(月) ～ 11日(木) |
| * 足利の職人技列伝 | 7月 16日(月) ～ 25日(木) |

☆相談室&講座のご案内

- * 相談室 = 毎月第2・第4水曜 午後2時～4時 ※詳しくは、別紙参照
- * 講座 = 毎月1回 午後7時～9時 ※詳しくは、別紙参照

* 編集後記 *

昨年はゆるやかな暑さの中、各所で「平成最後の夏」と銘打ったイベント事が盛んに催されていましたが、今年は「令和最初の夏」となるのでしょうか？暑さが苦手な私は少々怯んでおりますが、自分なりに令和最初の夏を楽しみたいと思います。(すずうさぎ)